



2026年12月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2026年5月14日

上場会社名 株式会社アクリート 上場取引所 東
 コード番号 4395 URL <https://www.accrete-inc.com/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 株本 幸二
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役経営管理本部長 (氏名) 山本 敏晴 TEL 050-5369-3777
 配当支払開始予定日 —
 決算補足説明資料作成の有無：有
 決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2026年12月期第1四半期の連結業績（2026年1月1日～2026年3月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年12月期第1四半期	2,167	10.5	82	△24.1	82	△27.7	41	△31.3
2025年12月期第1四半期	1,961	51.2	108	170.8	113	180.1	60	90.9

(注) 包括利益 2026年12月期第1四半期 33百万円 (△26.4%) 2025年12月期第1四半期 44百万円 (△25.4%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年12月期第1四半期	5.50	5.42
2025年12月期第1四半期	9.83	9.82

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年12月期第1四半期	7,301	4,142	48.1
2025年12月期	7,093	4,086	48.5

(参考) 自己資本 2026年12月期第1四半期 3,509百万円 2025年12月期 3,442百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年12月期	—	5.00	—	5.00	10.00
2026年12月期	—	—	—	—	—
2026年12月期（予想）	—	5.00	—	5.00	10.00

(注) 1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

3. 2026年12月期の連結業績予想（2026年1月1日～2026年12月31日）

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	9,590	9.1	656	23.9	636	20.9	420	36.5	56.03

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：無
新規 ー社 (社名) ー、除外 ー社 (社名) ー

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2026年12月期 1 Q	7,780,158株	2025年12月期	7,710,158株
② 期末自己株式数	2026年12月期 1 Q	280,274株	2025年12月期	280,274株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2026年12月期 1 Q	7,495,995株	2025年12月期 1 Q	6,104,177株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通しなどの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(決算補足説明資料の入手方法)

決算補足説明資料はT D n e t で同日開示するとともに、当社ホームページに掲載いたします。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	5
四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	7
(セグメント情報等の注記)	8
(重要な後発事象)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間末日現在において判断したものであります。

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間における我が国経済は、景気の先行きが依然として不透明な状況で推移いたしました。

当社グループの主たる事業領域においては、企業のデジタル化推進を背景に、各種ITソリューションやコミュニケーションツールの需要が継続しております。このような状況のもと、当社グループは「3つのセグメントの確立と構造改革期(2025年～2027年)」として、コミュニケーション、ソリューション、投資・インキュベーションの3セグメント体制へ移行し、持続的成長モデルの確立に向けた取り組みを推進しております。

当第1四半期連結累計期間におきましては、コミュニケーション事業において国内SMSが順調に推移したことに加え、ソリューション事業においてGPUサーバー関連事業が売上増加に大きく寄与し、会社全体として増収となりました。

一方で、利益面につきましては、コミュニケーション事業における海外SMSの売上減少等の影響や、投資・インキュベーション事業において2025年9月に子会社化したフォアグロブ株式会社(以下、FG社)の営業強化のための体制変更等立ち上げに想定以上の時間を要したこと等により、当第1四半期連結累計期間は前年同四半期比で減益となりましたが、第2四半期連結累計期間以降に向けて利益を積み上げていく予定であります。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の業績につきましては、売上高は2,167,494千円(前年同四半期比10.5%増)、営業利益は82,646千円(前年同四半期比24.1%減)となりました。経常利益は82,110千円(前年同四半期比27.7%減)となり、親会社株主に帰属する四半期純利益は41,215千円(前年同四半期比31.3%減)となりました。

報告セグメントごとの業績は次のとおりであります。

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額	連結損益計算書計上額
	コミュニケーション事業	ソリューション事業	投資・インキュベーション事業	計		
売上高	1,506,203	246,566	424,433	2,177,203	△9,709	2,167,494
セグメント損益	276,954	△32,585	△38,831	205,537	△122,890	82,646

① コミュニケーション事業

当セグメントでは、企業とエンドユーザーの最適なコミュニケーション基盤を提供する「A2P-SMS配信サービス」を中心に、国内および海外へのSMS配信や、ベトナム市場におけるメッセージングサービス等の事業を展開しております。社会的通信インフラとして定着したSMS配信市場の堅調な需要を土台とし、LINEやRC S等を統合したマルチチャネル型CPaaSプラットフォームへの進化に向けた取り組みを進める中、当第1四半期連結累計期間におきましては、確実な連絡手段としての需要を背景に、国内SMSの売上が順調に推移いたしました。一方で、海外SMSにつきましては、前年同四半期比で売上が減少いたしました。

以上の結果、当セグメントの売上高は1,506,203千円(前年同四半期比10.8%減)、セグメント利益は276,954千円(前年同四半期比5.8%減)となりました。

② ソリューション事業

当セグメントでは、AI技術や最先端のセキュリティ技術を駆使した課題解決型の高度なソリューションを展開しております。当第1四半期連結累計期間におきましては、生成AI普及によるAIインフラ需要を背景に、開発等に必要の高性能インフラを提供する「GPUサーバー関連事業」の売上が大きく寄与し、前年同四半期比で大幅な増収となりました。当第1四半期連結累計期間においては損失を計上しておりますが、第2四半期連結累計期間以降に向けて利益を積み上げていく予定であります。

以上の結果、当セグメントの売上高は246,566千円(前年同四半期比2955.4%増)、セグメント損失は32,585千円(前年同四半期は34,260千円のセグメント損失)となりました。

③ 投資・インキュベーション事業

当セグメントでは、有望企業への投融資やM&Aを推進するとともに、グループ各社のアセットを掛け合わせたシナジーの創出に注力しております。当第1四半期連結累計期間におきましては、各種サービスの引き合いが増加しており、売上高は順調に増加いたしました。利益面においては、2025年9月に子会社化したLINEを活用した

統合型マーケティング等を提供するFG社の営業強化のための体制変更等立ち上げに想定以上の時間を要したこと等により、前年同四半期比でマイナスとなりました。当セグメントにおいても、当第1四半期連結累計期間においては損失を計上しておりますが、第2四半期連結累計期間以降に向けて利益を積み上げていく予定であります。

以上の結果、当セグメントの売上高は424,433千円(前年同四半期比44.8%増)、セグメント損失は38,831千円(前年同四半期は10,279千円のセグメント利益)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

資産、負債、純資産別の財政状態は以下のとおりです。

(資産)

当第1四半期連結会計期間末の資産は、前連結会計年度末に比べて208,672千円増加し、7,301,776千円となりました。これは主に、仕掛品999,722千円、投資有価証券102,700千円、未収消費税等102,410千円、商品87,571千円の増加に対して、受取手形、売掛金及び契約資産605,005千円、現金及び預金463,180千円の減少によるものであります。

(負債)

当第1四半期連結会計期間末の負債は、前連結会計年度末に比べて153,117千円増加し、3,159,622千円となりました。これは主に、短期借入金394,510千円の増加に対して、未払法人税等120,465千円、買掛金47,937千円、1年内返済予定の長期借入金及び長期借入金47,194千円の減少によるものであります。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末の純資産は、前連結会計年度末に比べて55,554千円増加し、4,142,153千円となりました。これは主に、資本金28,945千円、資本剰余金28,945千円、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上による利益剰余金41,215千円の増加に対して、非支配株主持分10,878千円、配当金の支払による利益剰余金37,149千円の減少によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2026年12月期の業績予想については、2026年2月13日付「2025年12月期 決算短信」で公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2026年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,317,098	853,918
受取手形、売掛金及び契約資産	2,640,561	2,035,555
商品	95,103	182,674
仕掛品	356	1,000,079
未収消費税等	60,453	162,864
その他	467,602	496,140
貸倒引当金	△3,561	△3,304
流動資産合計	4,577,613	4,727,928
固定資産		
有形固定資産	32,009	32,192
無形固定資産		
のれん	570,996	534,665
顧客関連資産	728,174	713,672
ソフトウェア	376,401	385,274
その他	205,049	212,637
無形固定資産合計	1,880,621	1,846,249
投資その他の資産		
破産更生債権等	179	179
その他	612,992	705,537
貸倒引当金	△10,312	△10,312
投資その他の資産合計	602,860	695,405
固定資産合計	2,515,490	2,573,847
資産合計	7,093,104	7,301,776
負債の部		
流動負債		
買掛金	616,942	569,005
短期借入金	609,150	1,003,660
1年内返済予定の長期借入金	165,515	138,903
未払法人税等	184,042	63,577
賞与引当金	1,066	21,020
役員賞与引当金	10,000	1,897
その他	554,684	525,551
流動負債合計	2,141,402	2,323,616
固定負債		
社債	20,000	16,000
長期借入金	632,771	612,189
退職給付に係る負債	8,202	8,652
その他	204,128	199,165
固定負債合計	865,102	836,006
負債合計	3,006,505	3,159,622
純資産の部		
株主資本		
資本金	736,334	765,279
資本剰余金	1,409,136	1,438,081
利益剰余金	2,072,782	2,076,848
自己株式	△815,076	△815,076
株主資本合計	3,403,177	3,465,133
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	39,414	44,380
その他の包括利益累計額合計	39,414	44,380
新株予約権	9,541	9,051
非支配株主持分	634,466	623,587
純資産合計	4,086,598	4,142,153
負債純資産合計	7,093,104	7,301,776

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2026年1月1日 至 2026年3月31日)
売上高	1,961,440	2,167,494
売上原価	1,473,085	1,583,863
売上総利益	488,354	583,630
販売費及び一般管理費	379,495	500,984
営業利益	108,858	82,646
営業外収益		
受取利息	4,382	2,797
為替差益	1,320	-
その他	1,778	3,311
営業外収益合計	7,481	6,108
営業外費用		
支払利息	2,124	4,604
為替差損	-	1,983
その他	655	57
営業外費用合計	2,779	6,645
経常利益	113,559	82,110
税金等調整前四半期純利益	113,559	82,110
法人税、住民税及び事業税	40,349	56,040
法人税等調整額	4,020	505
法人税等合計	44,370	56,545
四半期純利益	69,189	25,565
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	9,159	△15,650
親会社株主に帰属する四半期純利益	60,029	41,215

(四半期連結包括利益計算書)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2026年1月1日 至 2026年3月31日)
四半期純利益	69,189	25,565
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	△24,326	7,456
その他の包括利益合計	△24,326	7,456
四半期包括利益	44,862	33,022
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	43,798	46,182
非支配株主に係る四半期包括利益	1,063	△13,160

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、当第1四半期連結累計期間において2024年9月30日付発行の第4回新株予約権の行使により、資本金及び資本剰余金がそれぞれ28,945千円増加しております。

この結果、当第1四半期連結会計期間末における資本金は765,279千円、資本剰余金は1,438,081千円となっております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2026年1月1日 至 2026年3月31日)
減価償却費	31,289千円	47,876千円
のれんの償却額	12,594	36,331

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自2025年1月1日至2025年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額	四半期連結損益 計算書計上額
	コミュニケーション事業	ソリューション事業	投資・インキュベーション事業	計		
売上高						
顧客との契約から生じる収益	1,688,009	6,808	266,621	1,961,440	—	1,961,440
その他の収益	—	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	1,688,009	6,808	266,621	1,961,440	—	1,961,440
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	1,261	26,518	27,779	△27,779	—
計	1,688,009	8,069	293,140	1,989,219	△27,779	1,961,440
セグメント利益又は損失(△)	293,965	△34,260	10,279	269,984	△161,126	108,858

(注) 1. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. セグメント利益又は損失の調整額の内△143,644千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用となっております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. 報告セグメントごとののれん等に関する情報

当第1四半期連結会計期間において、ズノー社を取得し、連結の範囲に含めたことに伴い、「投資・インキュベーション事業」セグメントにおいてのれんが発生しております。当該事象によるのれんの増加額は、112,858千円であります。なお、ズノー社の株式取得によるのれんの金額112,858千円は、当第1四半期連結会計期間末において取得原価の配分が完了していないため、暫定的に算定された金額であります。

II 当第1四半期連結累計期間(自2026年1月1日至2026年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額	四半期連結損益 計算書計上額
	コミュニケーション事業	ソリューション事業	投資・インキュベーション事業	計		
売上高						
顧客との契約から生じる収益	1,504,103	245,731	417,659	2,167,494	—	2,167,494
その他の収益	—	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	1,504,103	245,731	417,659	2,167,494	—	2,167,494
セグメント間の内部売上高又は振替高	2,100	835	6,773	9,709	△9,709	—
計	1,506,203	246,566	424,433	2,177,203	△9,709	2,167,494
セグメント利益又は損失(△)	276,954	△32,585	△38,831	205,537	△122,890	82,646

(注) 1. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. セグメント利益又は損失の調整額の内△123,590千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用となっております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(重要な後発事象)

(合弁会社の設立)

当社は、C u s t I n t C o P t e L t d (本社所在：シンガポール、以下、CC社と記載)との間で資本業務提携(出資)に向けた基本合意を行っておりましたが、2026年4月8日開催の取締役会決議において、CC社との間で合弁会社を設立することについて決議いたしました。

①合弁会社設立の目的

当社は、AIを活用した音声・顔画像分析技術において高い知見と製品販売等の実績を持つCC社からOEM提供を受け、自社製品「ANOTHER AI (アナザーアイ)」を販売展開するとともに、2025年9月には同社と資本業務提携に向けた基本合意を締結するなど連携を深めてまいりました。

昨今、企業における人的資本経営の推進や、「ストレスチェック義務化」の対象拡大方針などを背景に、従業員のメンタルヘルスケアは企業にとって喫緊の課題となっております。その中で、従来のアンケートや面談形式が抱える「本音が見えにくい」「心理的ハードルが高い」といった課題を解決するため、客観的かつ高精度なAIテクノロジーを用いたサービスの需要が一層高まることを見込まれております。

このような企業の課題を的確に捉え、高付加価値なソリューション展開を共同で実施するため、本合弁会社の設立を決定いたしました。本合弁会社を通じて、OEM提供を受けた自社製品「ANOTHER AI (アナザーアイ)」にも組み込まれているCC社の最先端AIサービス群「Genie AIエンジン」シリーズを国内で戦略的に提供・共同開発することで、従来の代理店販売からソリューション事業展開への転換を図ります。

本合弁会社が提供する「Genie AIエンジン」シリーズのサービスは、約1分程度の音声データから客観的なメンタルヘルス状態を分析する技術や、音声通話から得られる音声データから感情の変化及び推移を分析する技術、顔の映像から約30秒でバイタルデータ(心拍数・呼吸数・血圧等)を非接触で測定する技術、さらには音声を用いた本人確認を行う技術など多岐に渡る技術を有しており、極めて高い予測精度を誇ります。

今後は、「Genie AIエンジン」をAPI連携により他社システムへの導入を容易にし、物流・運輸、介護、小売、コールセンター業など多岐にわたる業界のメンタルケア・ヘルスケアに関連する課題・問題等の解決・解消サービスを本格展開することで、新規顧客の獲得と収益拡大を目指してまいります。

②設立する合弁会社の概要

- | | |
|----------|---------------------------------|
| (1) 名称 | C u s t I n t C o J a p a n株式会社 |
| (2) 所在地 | 東京都千代田区神田小川町 3-28-5 |
| (3) 設立年月 | 2026年5月(予定) |
| (4) 資本金 | 10,000千円 |
| (5) 事業内容 | CC社製品の日本市場における独占的な商業化、流通、サポート業務 |
| (6) 決算期 | 12月31日 |
| (7) 出資比率 | 株式会社アクリート 51%、CC社 49% |

(多額の資金の借入)

当社は、2026年4月13日開催の取締役会において、次のとおり、資金の借入を行うことを決議し、2026年4月14日付で資金の借入を実施しました。

- | | |
|--------------|-----------------------------|
| (1) 資金使途 | GPUサーバー関連事業拡大に伴う運転資金として充当予定 |
| (2) 借入先 | 株式会社みずほ銀行 |
| (3) 借入金額 | 2,000,000千円 |
| (4) 借入金利 | 変動金利 |
| (5) 借入実行日 | 2026年4月14日 |
| (6) 返済期限 | 2026年7月31日 |
| (7) 返済方法 | 期限一括返済 |
| (8) 担保・保証の有無 | 無 |